かごしま農林水産

認証かごしま材 生産流通で苦戦

品質に高評価・価格とPR課題

鹿児島県産材のなかでも日本農林規格（JAS）に基づいて製材加工された「認証かごしま材」。県産材の利用を進めようと二〇〇四年に始まって四年目だが、生産や流通面で苦戦している。品質面で高い評価を得る一方、価格の高さや認知度不足などがネックとなっている。認証材の現状と課題を探った。

（政経部・池端紘一郎）

認証かごしま材は、県内で育成、加工された丸太や製材品の中から、用途、ことに品質、寸法、乾燥などがJAS基準を満たした木材。主にスギやヒノキが使われる。しっかり乾燥させることで木材の割れや収縮、狂いが生じにくくなり、安心して長く住める住宅ができるのが「売り」だ。

このメリットに認証材を取り扱う事業所は年々増加。県林業振興課によると今年四月現在、住宅建築業者や製材業者などを合わせ、県内の百三十九社が取り扱い業者に認定されている。

◆◇◆

品質に優れた認証材だが、利用が進んでいるとはいえない。一般的な製材に比べ認証材は一割程度高価なためだ。その分を建設価格に上乗せせざるをえない。住宅の規模にもよるが、総工費の一～二％程度が上昇すると試算する関係者もいる。

また認証材を使う工務店や施主に対するPRも不足している。工務店と施主が打ち合わせる際、使用する木材の品質まで説明する工務店は少ないため、認証材を知らない施主が大半だ。ある関係者は「乾燥が十分でない材でも『建築中に乾くから大丈夫』と考える工務店も多い」とぼす。

県林材協会連合会（鹿児島市）などによると、昨年一年間で県内で着工された木造住宅戸数六千八百二十六戸のうち、認証材で建てられたと確認されている住宅はわずか三十四戸。全体の〇・五％にすぎない。昨年度に生産された認証材も千九百七十七立方㍍どまりで、目標とする二万立方㍍に遠く及ばない。

昨年度からは県内五金融機関と県が連携し、認証材を使った住宅ローンの金利を優遇する制度も始まった。しかし一年間で利用者はゼロだった。

◆◇◆

県もこの事態に手をこまねいているわけではない。県は〇五年度から公共施設への利用を通じ、県民へのPRを図り始めた。鹿児島市松陽台町に建設を進める「松陽台団地」（県営集合住宅の柱や内装、フローリングなどに認証材八百立方㍍を使った。県住宅政策室は「今後は他の県営住宅でもできるだけ認証材を使っていきたい」としている。

一方、県林業振興課も認証材の定時・定量・定質を確保するため、認証材を扱う事業所同士が連携しやすくなるネットワークを作りたい考えだ。昨年度は一般消費者が伐採現場や製材工場などを見学できるバスツアーを実施。認証材の良さを説明する工務店向けのセミナーを県内各地で開くなど認知度向上に力を入れる。

どうすれば利用が進むのか。県産材の利用促進を目指す「かごしま材ネットワーク」に参加する建築工房匠（鹿児島市）の福迫健代表（四八）は「柱以外の商品も充実させれば、もっと伸びる」と強調。認証材を生かした内装や家具類など、消費者にとって分かりやすい商品を作る事業所が増えれば、需要拡大につながると指摘する。

また認証材を製材加工する輝北プレスウッド（鹿屋市）の場村義一常務（六七）は、認証材利用者に対する助成制度の充実を訴える。具体的には認証材を使って家を建てた場合、使用した認証材の一部無料化や、数十万円程度を行政が助成する方法を挙げる。

認証材の品質の良さを訴えるだけでは消費者はついてこない。認証材の使用はふるさとの山を守ることにもつながるのだ。そんなセールスポイントの説明や消費者が思わず選びたくなるような仕掛け作りが求められている。

鹿県　利用促進へツアー、セミナー

品質に優れた「認証かごしま材」を製材加工する工場＝14日、鹿屋市輝北町

↑　平成19年5月20日　南日本新聞

地材地建を推進

鹿県内12団体が連絡協設立

HP開設、情報提供へ

鹿児島県内で育成・加工された木材「かごしま材」の利用を進める十二のグループが連携する「かごしま地材地建グループ連絡協議会」の設立総会が二十九日、県庁であった。研修会などで会員相互の情報交換を図るほか、将来は地域間で木材を融通し合い「かごしま材」の消費拡大を図りたい考えだ。

近年、県内の林業や住宅建設業者は、木材価格の低迷や住宅の受注減などで苦戦を強いられている。このため県は二〇〇三年度から、地域の木材を使い地域の工務店が住宅を建設する「地産地消」の住宅版「地材地建」を推進。〇六年度までに十二の地材地建グループが発足した。

昨年、会員から「グループ同士が連携し、かごしま材の家づくりに関する情報交換や各種研修の場がほしい」との要望が出た。このため本年度に入って三グループの代表が発起人となり、連絡協議会の発足にこぎ着けた。

初年度は鹿児島市で今秋開催される「かごしま

地材地建グループの連携を話し合った設立総会＝29日、鹿児島県庁

← 平成19年5月30日　南日本新聞

平成十九年六月三日

サロン

県産材PRへネットワーク

○…鹿児島県内で育成・加工された木材「かごしま材」の家づくりを進める組織が連携し発足した「かごしま地材地建グループ連絡協議会」。福迫健会長（四八）は「ネットワークを通じて地域に眠る木材を互いに融通し、業界が潤う仕組みを構築したい」と意欲的だ。

○…近年、木材価格の低迷や住宅の受注減などで県内の林業や住宅建設業者は苦戦が続く。「県産材の良さに対する理解は進んでいないと実感する」だけに「まずは『かごしま材』PRに向けて、会員相互の意見交換の場が必要」。

福迫　健氏

○…「自分で納得できる家を提供したい」と二年前に住宅メーカーを退社し独立。県産材をふんだんに使った家は施主に好評という。「時代は個性重視。『かごしま材』を使った特徴ある家づくりで大手に対抗したい」と話す。

↑　平成19年6月3日　南日本新聞